

都留未来新聞

都留市の希望となるか

意外にも、都留市の基幹産業は製造業を中心とした二次産業である。

就業人口に占める二次産業の割合は全国でも上位に位置し、工業都市としての特徴を有している。(東洋経済「都市データパック2021」)

背景には、都留市を含む郡内地域が、甲斐絹に代表される織物産業(郡内織)によって発展してきた歴史がある。その後、時代の変化とともに機械工業へと転換し、現在も工業を基盤とした産業構造が維持されている。人口推移においても、二次産業の拡大は人口増に寄与してきた。基幹産業である二次産業の発展は、都留市の希望となりうるのではないだろうか。

二次産業の就業人口比率
全国 815市区で 87位 (35.8%)

空間



都留の社会課題や地域課題があるのでは?

現実を真に受ける

都留市の基幹産業である二次産業は、過去四年間で事業所数が五十七社減少しており、現在も衰退の一途をたどっている。(都留市「つる観光戦略」令和5年)

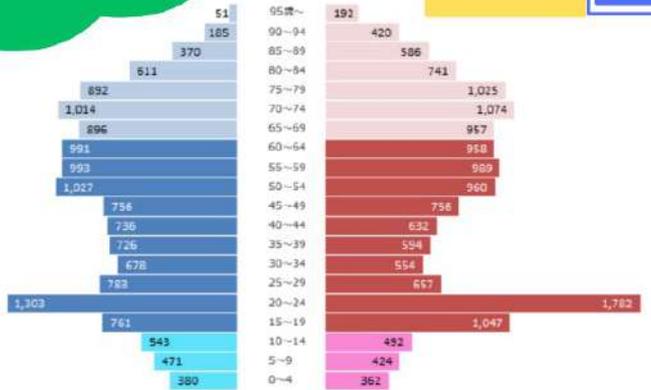
基幹産業の衰退は、雇用機会の減少を通じて人口減少を招きやすく、地域経済の規模縮小を引き起こす。その結果、さらなる人口流出を招く「負のスパイラル」に陥る可能性がある。

二次産業の増減比率
564社→507社 (-10.1%)

環境

出を招く「負のスパイラル」に陥る可能性がある。

場所

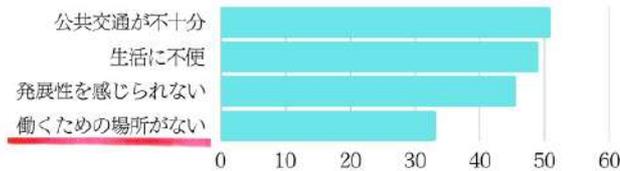


学生都市だからこそこのできることはないのか

都留市では、人口のおよそ十分の一を学生が占めている。一方で、卒業を機に「Gターン」や、都心部への就職を選択し、市外へ転出するケースが常態化している。年齢構成を見ると、人口ピラミッドはすでにいびつな形となっており、学生層を除いた場合、二十五〜四十歳の層は男女ともに少ない。少子化の進行に加え、地域内での就職機会の限られた状況が、若年層の流出につながっていることが読み取れる。学生と地域住民との関係が希薄になっている今だからこそ、学生とともに発揮できる「なにか」を皆で考える必要があるのではないだろうか。

「住み続けたくないと思っている」理由

年々、転出を検討している人は増加しており、その理由として「働くための場所がない」が第四位に挙げられている。一方で、基幹産業に限らず人手不足に直面している企業は多く、就業意識と実際の雇用現場との間にギャップが生じている。



「空間」「場所」「環境」から理解する

- 【地理学の中心概念】マッシュューズ&ハーバート
- 「空間」…人の行動や産業の立地などからみた特徴
- 「場所」…価値観などにもとづく特徴
- 「環境」…水などの自然環境の特徴
- 【広辞苑】言葉の定義
- 「空間」…自然現象の生起する場所
- 「場所」…ところ、場、位置
- 「環境」…自然的環境と社会的環境
- 【我々の考える】
- 「空間」…無機質、歴史、産業
- 「場所」…有機質、循環、事実
- 「環境」…変化するもの

産業のハブが必要だ

以上を踏まえ、我々は都留市に「産業と人をつなぐ場」が必要だと導き出した。また、この壁新聞制作を通じて「都留の価値」を改めて発見することができた。都留市には、学生、地域産業、創設百年を超える廃校、そして豊かな自然環境など、これまで都留市の歴史を支えてきた多様な資源が存在する。これらの「空間」「場所」「環境」を活用することで、新たな「都留の価値」を発見し、創出していくことができるのではないだろうか。



南都留森林組合



有限会社モールドモデル



ふるさと時代祭り(八朔祭)